

宗教と平和: 仏教哲学と平和

The Centre for Peace and Reconciliation
Studies, Coventry University, UK
田辺寿一郎

本講義目的

- 1) 平和研究の基礎的理念の考察
- 2) 平和研究における紛争・暴力・平和の基礎的意味の考察
- 3) 仏教哲学の基本的思想の考察
- 4) 仏教から見た紛争・暴力の原因の考察
- 5) 仏教から見た平和の意味の考察

平和研究の根本目的

- 公正で平和的な社会・人間関係の研究
- 平和の意味の多様性・多次元性の理解 (not single peace but multiple peaces)
- 多様・多次元的な紛争 (conflict)・暴力 (violence)のダイナミズム研究

紛争・暴力・平和の基本的意味

- 紛争 (Conflict)
- 1) The pursuit of incompatible goals by different individuals/groups: 異なるグループ・個人間で相容れない目標を追求している状態
- 2) A universal and natural phenomenon of human relationship: 人間関係において普遍的・自然な現象
- 3) A motor of change/an opportunity for change: 相互にとって変化の原動力・機会

紛争・暴力・平和の基本的意味

- Johan Galtungの三つの暴力の概念
- Direct Violence (直接的暴力)
- Structural Violence (構造的暴力)
- Cultural Violence (文化的暴力)

紛争・暴力・平和の基本的意味

- 二つの平和
- Negative Peace (消極的平和)
- Positive Peace (積極的平和)


仏教哲学

- 仏教創始者: 仏陀(563BCE~483BCE)
- 主目的: 苦しみからの自己の解放(苦しみの克服)
- 仏教の柱としての四諦の存在と人間世界(社会?)における実践


仏教哲学

- 第一真理: この世は苦しみに満ちている
- 第二真理: 苦しみには原因がある: 人間を含めた現実世界への正しい知識(或いは智慧)の欠如=無明(無知); 執着心
- 第三真理: 苦しみは人間自身の努力によって克服できる
- 第四真理: 苦しみ克服のための方法: 八正道: 正見; 正思惟; 正語; 正業; 正命; 正精進; 正念; 正定


仏教哲学

- 四諦の意味: 現実世界は人間の心の様相: 人間の心の状態が我々の現実世界の状態
- 
- 紛争・暴力の原因としての人間自身の心の問題を考察し実践していく必要がある

仏教哲学

- Svabhava: 人間を含めた現実に対しての固定化された性質や意味の投影及びその固定化された考えの絶対化: 自己の考え・考え方の絶対化
- 
- 紛争や暴力を含めた人間の苦しみへと繋がる

仏教哲学

- 苦しみの原因としての無明(無知)・執着心の克服: 弁証法的黙想(熟思): 我々の現実世界を形作る概念・知識・観点などの本質を捉える
- 
- 現実世界を形成する概念・言葉・知識などに対する間違った理解が苦しみの大きな原因ならばそれらに対する正しい理解を得て体現することが重要


仏教哲学

- Pratityasamutpada (相依性縁起: dependent-arising, interdependent and interpenetrating nature of reality): 異なる或いは対向概念及び観点の根源的相互依存性の理解と体現
- Sunyata (空: emptiness: あらゆる概念・知識・観点の独立性及び絶対性の矛盾と不可能性)
- 相依性縁起・空の目的: 概念・知識・観点の否定ではない: それらに対する正しい識見・知恵に目覚めることで潜在的問題を克服すること

仏教と紛争・暴力のダイナミズム

- The conditioned mind(条件付けられた心)の概念の提唱
- The conditioned mindとは? : 社会的・文化的に構築された考え・考え方(例えば世界観・価値観・イデオロギー・宗教的教義等々)によって条件付けられ心(或いは状態)


仏教と紛争・暴力のダイナミズム

- 紛争の原因としての自己の条件状態の絶対化
- 自己の条件状態の絶対化と安心感達成の関連性: security:se/cura (ラテン語: without care or concern:不安感の無い状態)
- 条件状態の絶対化と現実世界の固定的概念・観点による固定化
-  流動的世界を自己の考えで固定化することで分かり易くし先の見えない不安感を克服する: 根源的な精神的安心感を確保

仏教と紛争・暴力のダイナミズム

- 条件状態の絶対化・固定化の紛争へのインパクト
- 1) 独断主義: 自己と異なる考え方・観点・アイデンティティを有するグループへの排他的態度: 異なるグループへの嫌悪感・憎悪・恐怖感の発生
- 2) 内集団 (in-group)・外集団 (out-group)の先鋭化: 内集団・外集団の境界線の固定化


仏教と紛争・暴力のダイナミズム

- 3) 二元論的・二分的・断断的思考の先鋭化
- 
- 外集団への差別・暴力の自己正当化へ

仏教と紛争解決

- 紛争解決への鍵: 限定的な考え方や外集団への偏った見方の原因になっている自己の条件状態から自己を切り離して冷静に見つめること: 意識を外の対象から自己へと転換させることが重要
- 紛争状態: 意識は外の対象(相手)に向いている: 自己の条件状態及び偏った見方には無意識

仏教と紛争解決

- 紛争解決: 意識のスペクトルを外の対象と同時に自己へ向けることが重要: 外的ダイナミズム(或いは自己と他の間主観的)ダイナミズムと自己の内的(心的)ダイナミズムの両方のモニタリング
-  内集団・外集団間の間主観的ダイナミズムは自己の内的ダイナミズムの様相: ネガティブな間主観的ダイナミズムを容受するには自己変容も絶対不可欠

仏教と紛争解決

- The unconditioned mind(無条件の心)の概念の提唱
- 社会的・文化的条件状態を超越した心或いは心理状態:条件状態とその思考・認識への影響を批判的に分析するための心理状態
- 人間の心:社会的・文化的・組織的に条件付けられた状態と本来の無条件状態の両方を有している:紛争解決には両方の状態を理解し実践することが重要

仏教と平和

- Holistic mind(ホリスティック・マインド)の提唱:現実の問題(紛争や平和も含めて)に取り掛かる際にthe conditioned mindと the unconditioned mindの両方を認識し活用できる心(心理状態)
- 社会的・文化的・組織的条件下においてもその条件状態から一歩身を引いた状態を作ることによって常の外のダイナミズムと自己の内的ダイナミズムの両方を見つめる力を養うことの重要性

仏教と平和

- Holistic mindと建設的紛争解決の実践的手法
- Mindfulness:常日頃から自分の感情状態・思考のモニターの実践
- Reflective engagement:自分の現在の思考・価値観・世界観がどのような文脈から構築されてきたのかを分析:客観性や永続性への批判的態度の醸成:自己の条件状態の認識と条件状態への批判的態度の醸成

仏教と平和

- Holistic mindと紛争解決の実践的手法
- Contemplative practice: 観照的・静観的瞑想の実践:内集団・外集団という境界線を形成する概念・価値観・世界観の本質を探るための内省的瞑想
- Holistic mind と実践的手法:どんどん自己の心の可能性・力に対する自己の認識と理解を深化させること:心理的かつ哲学的要素が混在した手法

仏教と平和

- Holistic mindと哲学的前提
- 異なる概念・観点の根源的相互依存性:概念・観念・観点の独立的存在の不可能性:対立構造の根源的相互依存性・相対性
- 一つ概念・観点・アイデンティティへの固執の超越
- 二元論的思考から非二元論的思考への変容

仏教と平和

- Holistic mindと哲学的前提
- 相違・対立構造は脅威・恐怖・憎悪の原因ではなく新しい考え・世界観・価値観を構築する機会:異なる考えやアイデンティティを有する人あるいはグループとの出会いは学び・自己変容の機会
- 心の多面的機能の理解と実践による多様な考え方・モノの見方の紛争解決・紛争変容への応用:理性的思考・想像力・直観的思考・瞑想・観照・多様な感情の受け入れ等々

仏教と平和

- 仏教的心の平和 (Inner Peace)
- 愛 (Karuna) と現実世界への正しい知識 (智慧) (Prajna) の体得と実践による自己内の調和及び他人との調和
- 平和の相互依存性・非二元論性: 自己の平和と他者の平和は常に相互依存的現象: 一方向的平和の不可能性